

妙高山遭難 現地での対応(2009年3月24日)

高崎 俊平(昭和41年卒)

ヘリコプターが飛べる状況であれば、午前9時には離陸し、約45分後には現場に到着する、との話で飛来を待つ。

10時20分頃、ヘリコプターが妙高山方面へ飛来、一旦山の北側に入って視界から消え、西側から再度姿を現し、高度を下げて、杉の原スキー場の駐車場へ飛来。

(大島課長を搭乗させたのかも知れない)

もう一度妙高山へ向かい、先程と同様に一旦北側に入って視界から消える。11時直前に再度姿を現す。スノーボード様のものを吊り下げている。杉の原スキー場の駐車場に着陸。ご長男は歩いて駐車場へ、弟さんが後を追う。

間もなく、ペンション「夢冒険」に妙高警察署員が見え、遺体が收容されたので、本人確認してほしい旨の依頼を受けた。宿から近藤夫人を乗せて、車で駐車場へ向う。途中で、大島課長運転のバンと出会い、バス用の駐車場で本人確認。本人確認は近藤夫人とご長男がされました。中村・高崎も対面、顔面は血糊が付着し、痛ましかった。

警察のバンは遺体を乗せて、そのまま妙高警察署へ向い、近藤夫人・弟さん・ご長男が高崎の車で後を追う。ご両親は、母上(眩暈の持病がある様子)の体調悪く、中村さんと一緒に宿で待機。

警察署での検死には弟さん(脳外科医)が立ち会う。弟さんに寄れば、遺体には腕・脚等を含め骨折等の大きな怪我は見当たらない。直接の死因は、顔面を立ち木にぶつけた事に起因する脳挫傷・脳内出血であろう、との事であった。

検死の間、近藤婦人とご長男は、刑事課の係員から色々訊かれ調書が作られる。

大島課長から、佐藤さんから提供を受けたと言うプリントアウト(妙高山スキー登山の情報)を返される。(通夜の席で佐藤さんに返したら、作成したのは近藤さんだったようだ)

また、案内人(中野さん)、スキー場事務所には費用の支払いを含め、キチンと対応するよう助言を頂く。(不適切な対応で警察署が困るケースもあるらしい)

15時過ぎに中村さんに付き添われてご両親がタクシーで到着されたが、母上の体調が悪く、警察署内の休憩室で休まれ、父上だけが面会。

平井氏(近藤氏の勤務する会社の社長)が到着し面会。

15時30分頃、地元葬儀社のバンに近藤婦人とご長男が同乗して、町田へ向けて出発する。

中村・高崎は平井氏を最寄りのJRの駅に送る。この間にご両親と弟さんは列車で町田に向われた。

この後、中村・高崎は翌日のお礼回りに備えて、ビール券・封筒などの買出しを終え、杉の原の宿に戻る。